

第 3 期スポーツ基本計画中間評価の進め方について

○ 中間評価の目的

第 3 期スポーツ基本計画（令和 4 ～ 8 年度）について、ロジックモデルに基づき、計画前半期（令和 4 ～ 6 年度）の取組状況を評価・公表し、その成果指標の進捗状況や社会状況の変化等を踏まえて新たに実施すべき取組や改善すべき取組等を、後半期に向けて示す。さらに、第 4 期スポーツ基本計画の策定に向けた検討にも活用していく。

○ 進め方

- ① 第 3 期スポーツ基本計画における「今後 5 年間に総合的かつ計画的に取り組む 12 の施策」について
 - ・ KPI の数値の推移
 - ・ 前半期（令和 4 ～ 6 年度）の進捗状況を整理する。
- ② 評価を実施するにあたり、個別政策テーマや留意点を踏まえながら、前半期を通して明らかになった課題やその対応・今後の取組方針について議論を行い、評価に反映する。
- ③ KPI、ロジックモデルの構成や目標値の妥当性等についても併せて確認する。

⇒本日の審議においては、

- ・ 上記①～③の方針
- ・ 個別政策テーマ・評価にあたっての留意点について議論を行う。

⇒部会では、基本的にロジックモデルをもとに、2 ～ 3 回に分けて議論する。

○ 個別政策テーマ案（たたき台）

※（1）～（12）は、計画における 12 施策の番号

東京大会を契機とした共生社会の実現、多様な主体によるスポーツ参画の実現

- （1）多様な主体におけるスポーツの機会創出
- （5）スポーツによる健康増進
- （8）スポーツを通じた共生社会の実現
- （10）スポーツ推進に不可欠な「ハード」「ソフト」「人材」

- ・ 国民のスポーツ機会の創出、スポーツによる健康増進
- ・ 障害者スポーツの推進
- ・ 子供のスポーツ機会の充実（子供の運動習慣の形成・体力の向上、部活動改革）
- ・ スポーツ実施環境の整備、人材育成

東京大会のレガシーを継承した持続可能な競技力向上体制の構築

(3) 国際競技力の向上

(4) スポーツの国際交流・協力

- ・ 国際競技力の向上のための支援、今後の国民スポーツ大会
- ・ スポーツを通じた国際交流、大規模国際競技大会の開催支援

スポーツ DX の推進、スポーツを通じた地方創生・日本経済の活性化

(2) スポーツ界におけるDXの推進

(6) スポーツの成長産業化

(7) スポーツによる地方創生・まちづくり

- ・ スポーツの場における先進デジタル技術やデータ活用の促進
- ・ スポーツ産業の活性化支援
- ・ スポーツを通じた地域活性化

スポーツ団体の組織基盤の強化

(9) 担い手となるスポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化

(10) スポーツ推進に不可欠な「ハード」「ソフト」「人材」(暴力根絶部分)

(11) スポーツを実施する者の安全・安心の確保

(12) スポーツ・インテグリティの確保

- ・ ガバナンス改革・経営力の強化、スポーツ・インテグリティの強化